



一隅を照らそう
5月号

304号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

令和は「うるわしさ」

住職 中島 有淳

いよいよ改元の五月を迎えます。
天皇が退位され新天皇が即位。同時に「令和」の元号の誕生です。

種々な出来事があった平成の時代から、「令和」はどんな年になるのでしょうか。誰しもが期待を込めて、新しい時代に胸を膨らませていきます。

「令和」（れいわ）の典故

■出典

「万葉集」巻五、梅花の歌三十二首并せて序

■引用文

初春令月、気淑風和、

梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香

■書き下し文

初春の令月にして、気淑く風和ぎ、

梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす

■現代語訳（中西進著「万葉集」から）

時あたかも新春の好き月、空気は美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き、

蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている

「令和は『うるわしさ』で野放図なこの時代の目標にしてみても」と、策定に係わった国文学者・中西進氏のインタビュー記事にありました。（朝日新聞4/20朝刊）

そして「東アジアの中で自分を失わず和の理想を掲げて」とも。「和の対極にあるのが暴力的な他国への越境です。日本には朝鮮半島などに武力で押し入ってしまった歴史があります。そういう近代のひどい歴史はもう終わりにするべきです。」「漢字という共通性を持つ東アジアという大きな文化の中に、日本はいるのです。排他的であつてはなりませんし、とはいえ、自分を失う形で溶け込んでいいけない。国際性を持ちつつ、独自の理想を掲げてほしいですね。」

確かに日本では大化の改新（645〜650年）以来、中国を意識し独自の元号を使い、そこに天命を冠して日本の伝統文化を築いてきました。聖徳太子の「和を以て貴しと為す」の精神は、外部にあるものを取り込み、そこに新しい輝きに作り替え、それによって内部から輝くという文化です。

この精神は、「和して同ぜず」でもあり、そこに日本の文化の独自性の真骨頂があるといえます。

また、七八二年に改元された「延暦」は後に天台宗の総本山「延暦寺」と称された元号であります。更に日本天台の源流は、中国浙江省の天台山で発祥した天台大師智顗（538〜597年）の「中国天台」とであると知ります。

折りふしのはな

しゃくなげ

四月半ば

玄関前に

しゃくなげが

入りました

ピンク系の大輪で

とっても

甘い香りがします（遊）



五月行事案内

◎五月八日 午後二時

薬師如来大護摩供修行

◎五月十二日 午後二時

智泉院法要日（於・日本橋茅場町）

◎五月十八日 午後二時

観音経読誦法要（於・神木観音堂）

◎五月二十八日 午後二時

不動明王大護摩供修行

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

ご希望の方には
お札を授与しております
どなたもご参詣下さい

祝
新元号
令和

第8回 止観（坐禅）会
5月18日（土）10:00〜11:00（500円）
月に1度の坐禅会。つつじの時期を過ぎて初夏の初々しい若葉の頃、本堂で静かに瞑想してみませんか。

あとかき

○平成の時代、天皇は戦没者の慰霊と、多く発生した自然災害への慰霊に対しての「祈り」のお姿が印象的でした。今月は伊勢神宮（4/18）と八王子の昭和天皇陵（4/23）への参拝で、多くの国民にあるべき有終のお姿を示されました。

○世界的に有名なパリのノートルダム寺院の大聖堂が火災（4/16）で尖塔部分が焼け落ちるニュース映像にはビクビクして言葉を失いました。復興されることでしょうか。

○スリランカで同時テロ（4/23）が。ISのイスラム原意主義者による「自爆」という手段に深い闇を感じます。

○新紙幣の発行が五年後に。一万円札（渋沢栄一）、五千円札（津田梅子）、千円札（北里柴三郎）の肖像に各々変わるとか。二〇〇〇年に発行された「二千円札」は、あれからどうなっているのでしょうか。

○新元号を前に境内の銀杏も枝を切り、さっぱりしました。また「つつじ寺」として似合うようにとつつじの大株を本堂正面に移植。立派な花を咲かせて「令和」を迎えます。